

憲照先生の手本ア・ラ・カルト(14)
(à la carte)

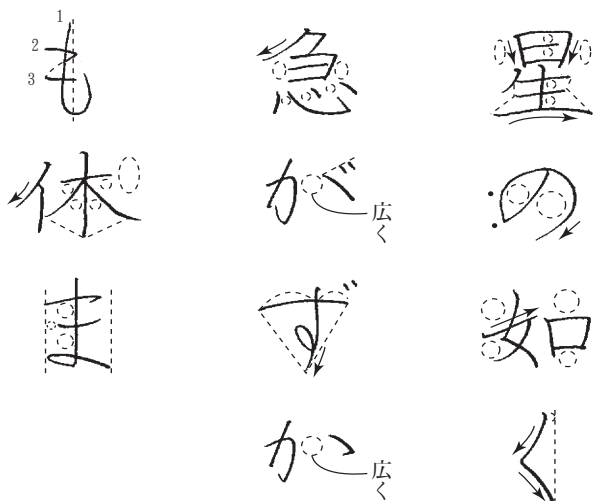
締切り 二月二十一日(必着)

昭和58年5月

星の如く
急がずしかも
休まず

つけペン・墨汁使用

〔解説〕



◎本会は、今年で創立六十七周年を迎えます。まだまだ世の中には、新型コロナ禍の影響で、世界中が不安の中にいます。しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。

◎今年の短期特別課題は、昨年に引き続き『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。一類を四ヵ月交替で掲載していく予定です。

◎多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。

◎創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

★星の：(書体Ⅱ楷書)

ゲーテ(一七九一—一八三二・ドイツ、詩人)
ゲーテは偉大な詩人であったゆえに、名言とされる言葉が多いが、これもその一つ。この後に、「人みなおのが業務に励めよかし」と続く。

天空の星は永久に休むことがない。しかも悠々として運行する。我らの業務も急がず休まず努力することによって進行する。人々よ星を仰いでこれに学べ。急ぎ過ぎたり、休み過ぎたりすることがあったら、業務はから回りにたり、停滞したりして、落後者となるより外はあるまい。

〔作品の出し方〕

▼今回も硬筆部だけに限ります。全員本会段位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。

▼用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。

▼出品制限の対象とはなりません。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。

※不明な点は無記入でも結構です。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

▼月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様をお願いします。

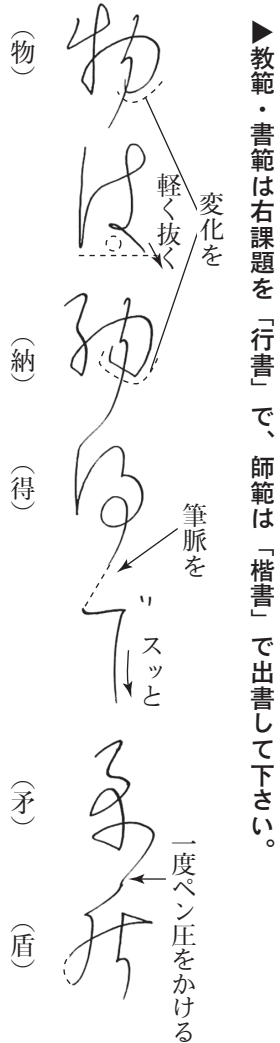
一般部規定課題

締切り 2月21日(必着)

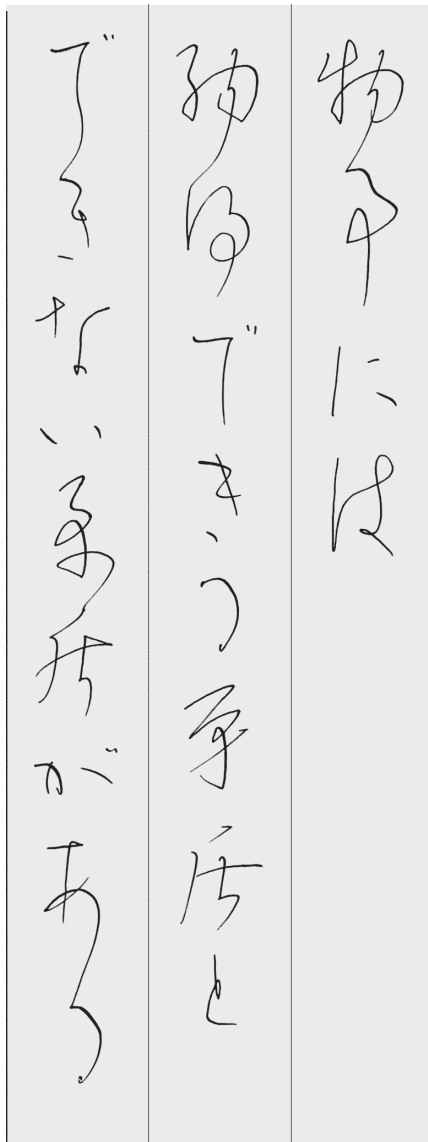
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。

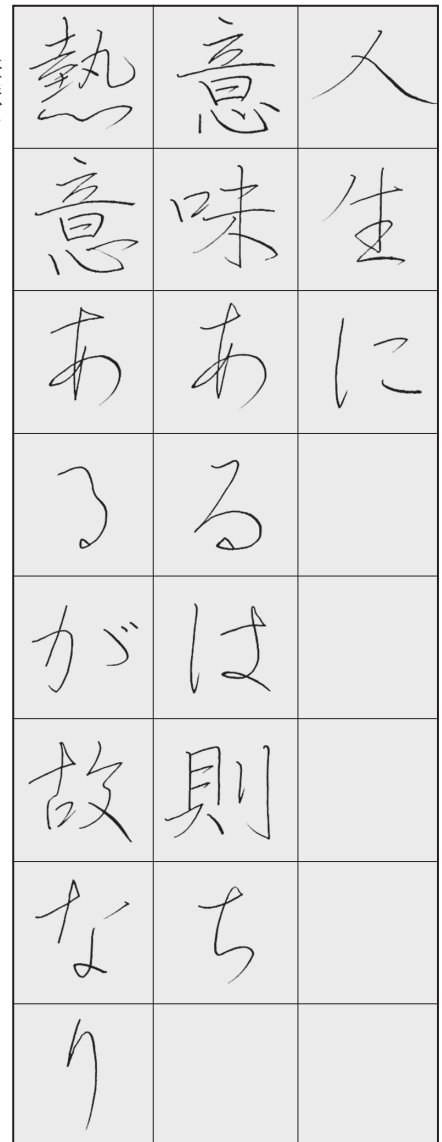


新井龍峰書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



古田瑞苑書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆3月課題予告(行書)

問題意識がなければ
目は節穴である

川田順造

▼教範・書範Ⅱ楷書

▼師範Ⅱ行草または草書

★物事には：(書体Ⅱ行草または草書)

大竹伸朗(一九五五)

日本の現代美術家

例えば、人が考えた作品コンセプト等、ものともしない物体の「圧倒的に強い形」を前にすると、「なんだかボジティブなあきらめな気持ちになる」と美術家は言っています。

これも、納得できる矛盾の一つであるのではないでしょうか。

◆3月課題予告(楷書)

信頼される
という事は
曖昧さをなくす事

★人生に：(書体Ⅱ行書)
北村透谷(一八六八～一八九四)
詩人・評論家
すべての情感の底に「熱意」あり。
すべての事業の底に熱意あり。凡ての愛情の底に熱意あり。若しヒューマニティーの中に「熱意」なるものが無かりせば、恐らく人間は歴史なき他の四足動物の如くなりしなるべし。と透谷は著わしています。

一般部かな課題

締切り 2月21日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

木曾路ゆく我も旅人散る木の葉



た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

木曾路ゆく我も旅人散る木の葉



た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆3月課題予告

かたまつて薄き光の菫かな

(渡辺水巴)

【解説】「我」の五画目の右はらいは、三画目の縦線より長く右へはらう。

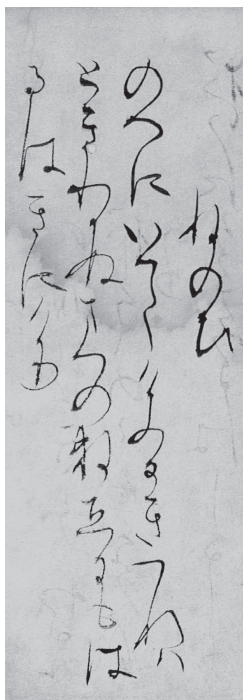
遊 多 毛 遅 流
遊 多 毛 遅 流
遊 多 毛 遅 流
遊 多 毛 遅 流

【古筆参考】

木曾路ゆく我も旅人散る木の葉
【句解】山深い木曾路をたどって行く旅の人、自分もそういう旅人の一人として、折から散りかかる木の葉を浴びて行くことだ。
【鑑賞】大正九年の作。この年の十月、世間を気にしない明るい漫画で俳誌ともかわり深い小川芋銭と信濃地方を旅した折のもの。芋銭は写生をし、亜浪は作句をしながら歩いたらしい。西垣脩の伝えるところによれば、旅の途中、遠くに小荷物を負うた廻国巡礼の商人ふうの老人を見かけて詠まれたものという。

〔古筆参考〕

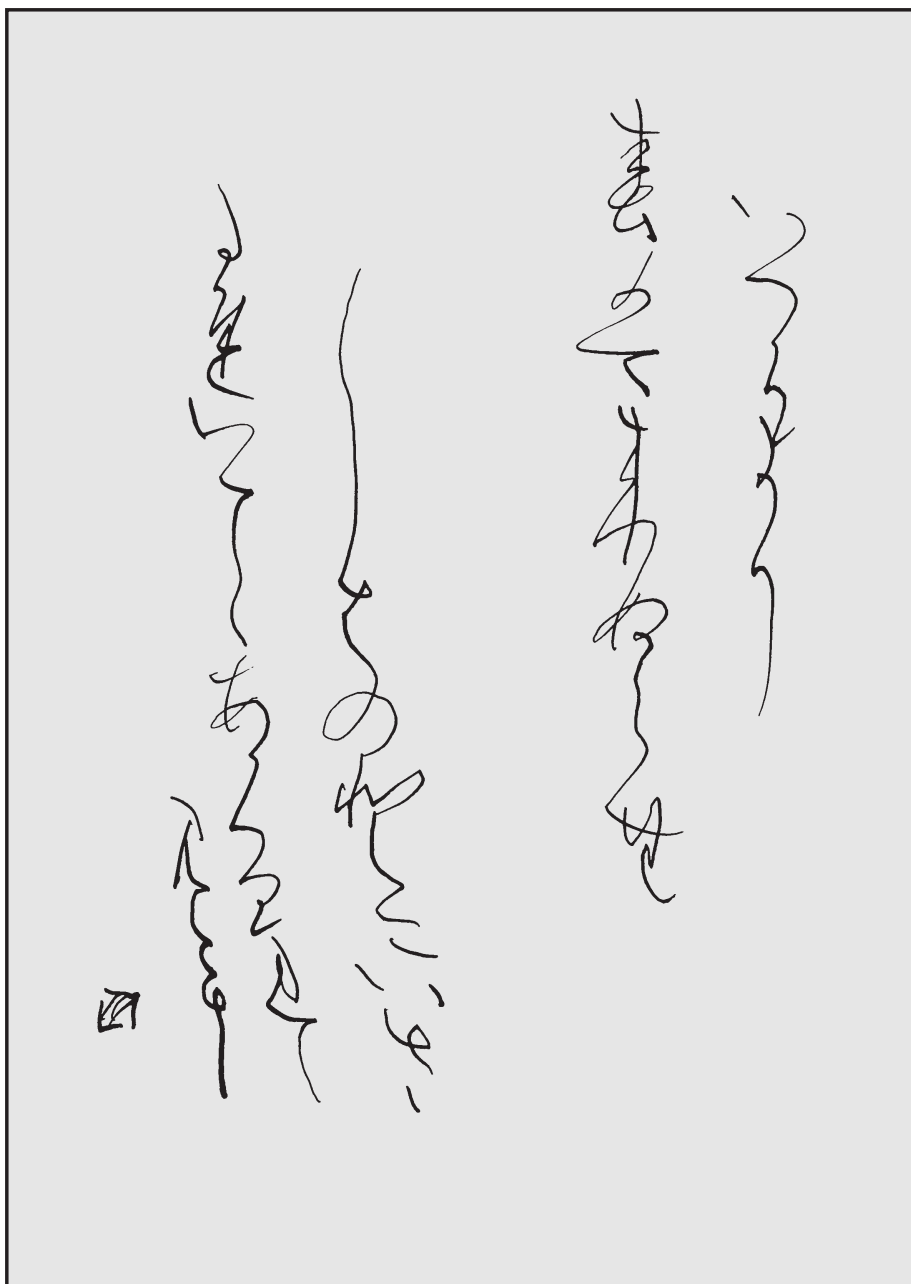
なかつかさしゅう
中務集



ねのひ
のべにい^でけ^介ふひきつれば^八
ときわ^可かぬ^万まつ^数のすゑ^尔にもは
るはきに^介け^利り

締切り 二月二十一日（必着）

築瀬舟香書



『中務集』とは

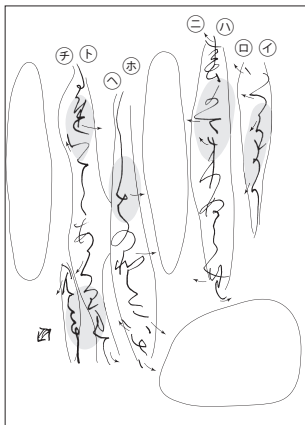
この中務集は人に愛される。その理由は、上代の風趣がありながら、自由で、明るく、そして難解な筆遣いがないのである。書くのもらくだし、見る目にも美しい、と云うのが最大の魅力である。

いづくより春は来ぬらむ柴の戸に
 いざたち出でゝあくるまで見む

【歌意】一体どこから春はやって来るのだろうか。柴で作った門まで出て夜の明けるまで眺めてみよう。

〔出典〕近世和歌集

（日本古典文学大系）



イとロ、
 イとチ、
 イとニ、
 イとホ、
 イとヘ、
 イとチ、
 ハとニ、
 ハとヘ、
 ハとチ、
 ホとヘ、
 ホとチ、
 トとチ、
 それぞれ
 呼応。

● () 行のふくらみ
● ○ 余白

それぞれ大切。

- 行の密の動き
- ↙ 線の指向性

◆ 3月課題予告

ほととぎすなが鳴く声をなつかしみ
この日暮しつその山野辺に

締切り 2月21日(必着)

銀色の産毛でおおわれた猫柳の枝が、川辺に春を招いています。今年のバレンタインデーは、少し趣向を変えて、手作りのチョコに挑戦しました。近い内に届けますから、感想をお聞かせ下さい。

※手本は水性ボールペン使用

銀色の産毛でおおわれた猫柳の枝が、川辺に春を招いています。今年のバレンタインデーは、少し趣向を変えて、手作りのチョコに挑戦しました。近い内に届けますから、感想をお聞かせ下さい。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題はがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

お 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

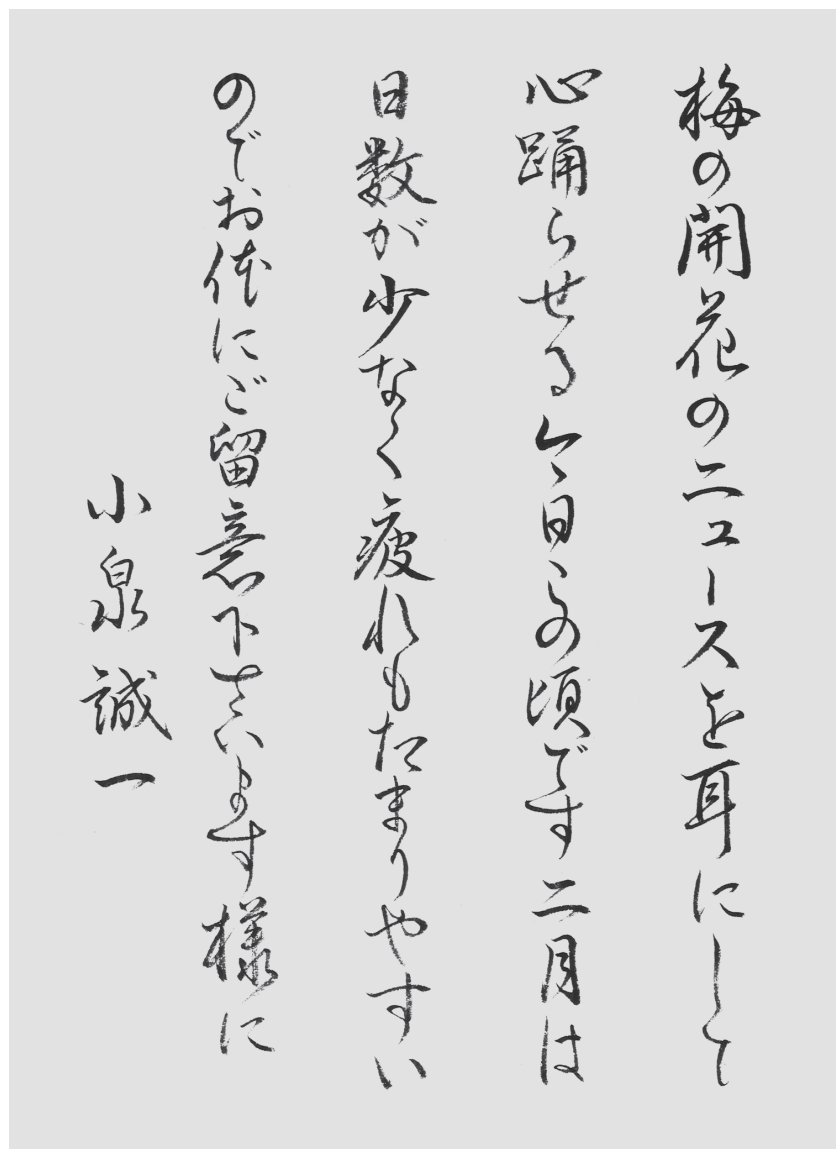
「夜明け前」の主人公の半蔵は、
藤村の父がモデルといわれる。

岐阜県下呂市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

書 香 梅 藤 伊



締切り 二月二十一日 (必着) 半切 (一二六 cm × 三五 cm)

荻田蒼仙書

江上晚風三弄笛

龍王玉信一枝梅

〔大意〕 入り江の夕暮
風に乗って美しい笛の
音が聞こえ、丘の上で
一本の枝に梅が咲いて
春を知らせる。
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔条幅解説〕

相対して近くで指導していると、つい些細な事に入ります。広い作品展会場で離れて距離をおいて見ると、細かい技術面より大切な生き方人生の処し方が見えてきました。大いに参考になり反省した次第です。

梅の開花のニュースを耳にして

心踊らせる今日この頃は

日数が少なく疲れもたまりやすい
のでお体にご留意下さいませ様に

(ご自分の氏名)

・印で墨つきしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。

■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(行書)

澤

幸

寿書

瑞氣満梅花

ずいきばいかにみつ
瑞氣満梅花

〔大意〕 馥郁とした梅花の香りが、このめでたい雲気の中に満ちている。

〔解説〕

瑞 満 花
氣 梅

◆3月課題予告(楷書)

陽春布
徳澤

準初段から師範まで

須田一葉 臨

来書謀 承褒讃

来書謀承褒讃

来書謀承褒讃

〔出典〕集字聖教序(六七二)
〔筆者〕王羲之法書より集字
〔読み〕来書を(得) 謬って褒讃を承く。

〔解説〕

来書

謀承

褒讃

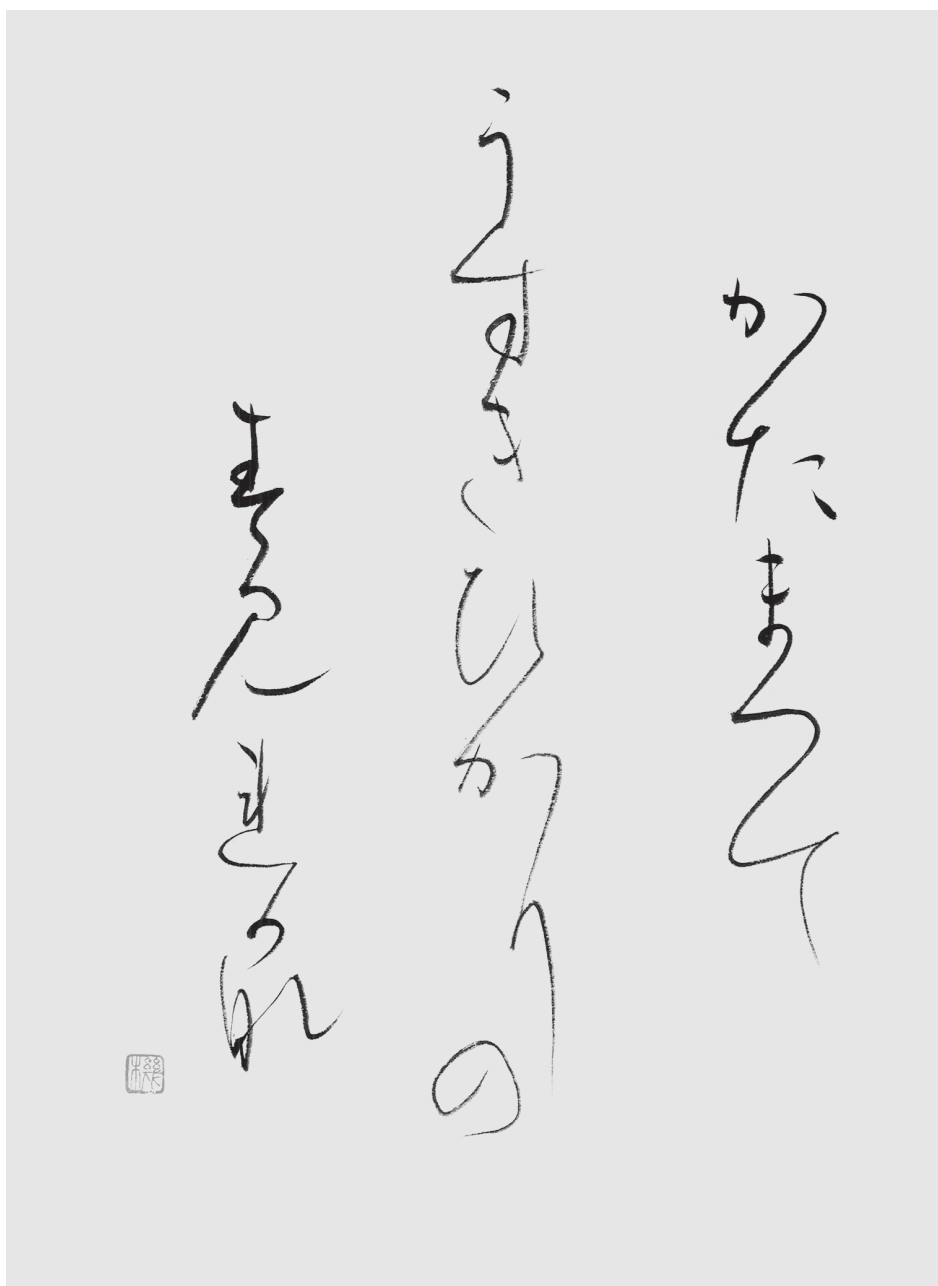
※文献によって字体が異なる場合があります。

◆3月課題予告

乃書精
一語以

新入から1級まで

浅井機山先生書



かたまつて^{うす}薄き^{ひかり}光の^{春見連可那}菫^{可那}かな

渡辺水巴^{わたなべすいは}

〔句意〕

淡い光をたたえた山上の一群の菫の可憐な趣がとらえられている。大自然の中でひっそりと咲く菫に心ひかれての句。

◆3月課題予告

子供等はすぐに外に出て松の花

〔解説〕

前2行は「平仮名」、第3行は「変体仮名」です。

連続している字数は、多くて3字です。3字でも上手く続けて書けない時は、「角」で筆をいったん紙面から上げて（離して）、角に毛先を置き直して続けていけばいいのです。その場合、筆を空中でぐるっと回して（約180度）持ち直すと、角に置いた時に毛先が垂直になりますので、鋭い線のまま書き続けることが出来ます。さて、1行ずつ見ていきましょう。

「かたまつて」

第1行は、行頭を約1字分あけて、「か」をゆっくり慎重に書き出します。「点」を打ってから直線の連綿線に入ります。

「た」の第1画、第2画まで書いて一呼吸します。「点」から「た」の第1画までの曲線↓直線↓曲線↓直線では、曲線はオソイ、直線はハヤイの基本リズムを持って書きましょう。「た」の2つの「点」は、打楽器を打つように軽やかにたたきます。同じように、「つ」から「て」の第1画を書きます。「て」は左に倒し1行の流れを右の方に持っていくきます。

「うすきひかりの」

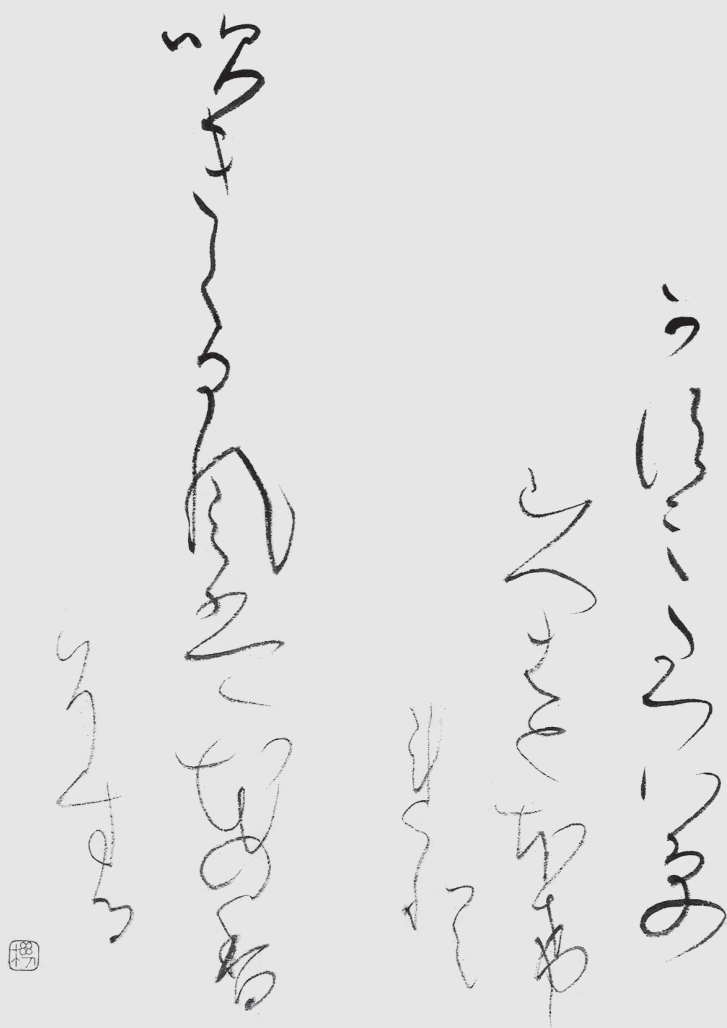
第2行は、上から下までのびのび書きます。「の」は左下に添えます。

「春見連可那」

墨継ぎして力強く「春」を書き、「見」の第2、3画は左右に大きく開きます。「連可那」は全体を見ながら、ゆっくり慎重に書きおさめます。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



可須三多 八る
霞立つ春の山辺は遠けれど

吹き来る風は花の香ぞする

〔歌意〕

霞の立つ春の山は遠いけれど、吹いてくる風は雲隠れの花の香を伝えるのか、その香がすることだ。

◆3月課題予告

さくら咲く遠山鳥のしだりをのながながし日もあかぬ色かな

〔解説〕

料紙は、薄手の楮紙に、(ヘドーサを引いて) (滲み止め)、右上・右下・左中程にページュ色のぼかしを施し、ぼかしの上に切箔を蒔き、砂子をばらばらと撒いて、打ち紙して仕上げています。

さて、全体を見ていきましょう。

墨継ぎは、第1行と第4行の行頭のみです。共に、たっぷり含墨してかすれるまで書いています。

では、1行ずつ見ていきましょう。

「可須三多…」

上部3分の1程あけて「可」を書き出します。間を取って「須」を広げ、「三多」の小さく狭い字は「可」の流れを受けて、「る」もやはり「可」と「三多」の流れを受けます。

「山へ者…」

前行より下げて「山」を書き出し、「者と」と「希」のタテ線は「山」の第1画を受けて流れを作ります。

「連登」

前行「山」よりさらに下げて「連」を書き出し、「登」の終画は右へ流して、第1行、第2行の終わりをしっかりと捉えて、前半をまとめます。

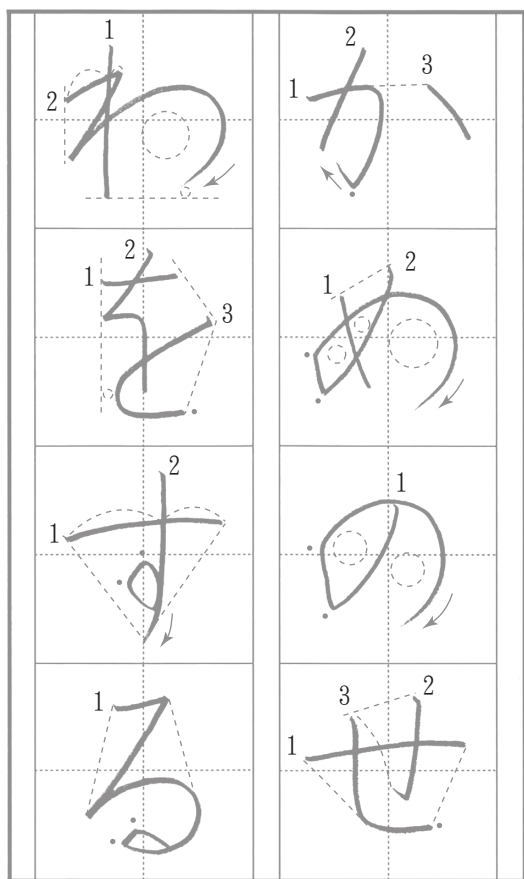
「吹きくる風…」

この作品の見せ場になりますから、たっぷり墨を含ませ、大きく、華やかに動きます。

「曾する」

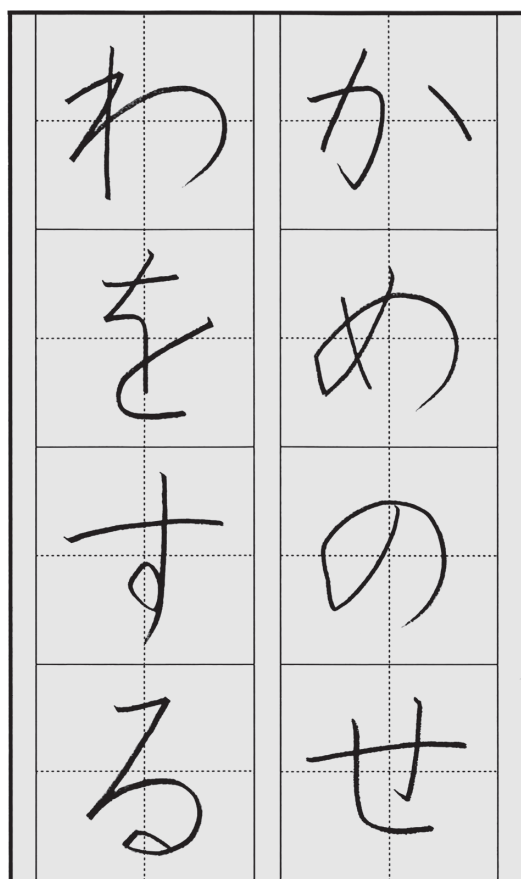
前の全てを受けて、静かに書きおさめます。

〈ようぐ〉自由 (黒色にかぎる)



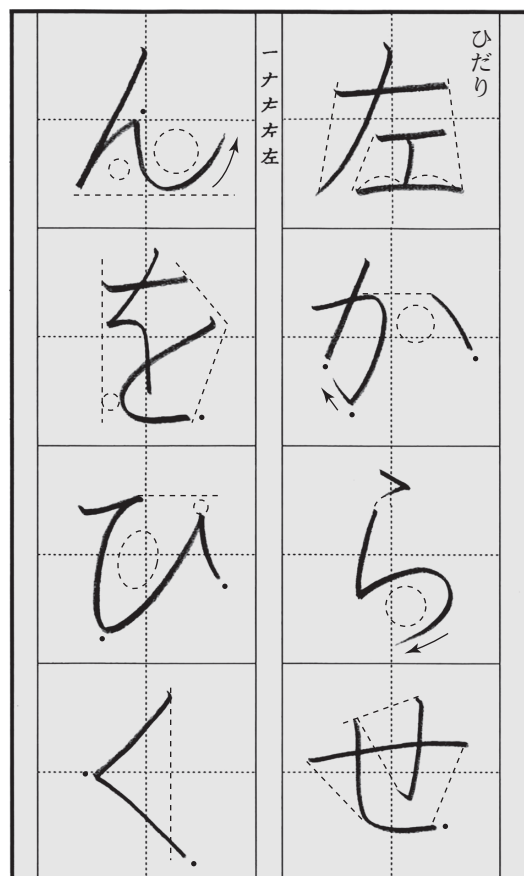
◆ひらがなトレーニング (なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



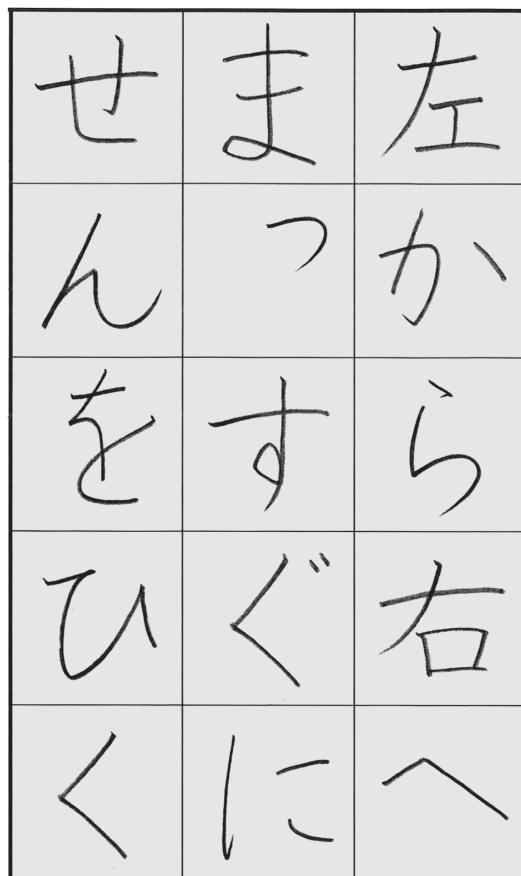
よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由 (黒色にかぎる)

き	ノ九	九	キユウ
ゆ	ノ人	人	ニン
う		で	
を	日 甲 里 野 野	野	ヤ

新入〜1級

ゆ	り	九
う	外	人
を	で	あ
す	野	つ
る	き	ま

小二年

準初段以上

た	うつく	美
ば	うつく	し
作	つく	い
る	はな	花

新入〜1級

た	で	温
ば	美	室
を	し	の
作	い	植
る	花	物

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由 (黒色に限る)

ネ 福 福 福 福	ふく	シヨウ
コ 引	び	テン
	店	ガイ
	街	
	の	

新入〜1級

賞	引	商
を	き	店
当	で	街
て	一	の
た	等	福

小四年

準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

いろ	ちち
色	父
コ	ソウ
小	相
とり	ダン
鳥	談
か(う)	き
飼	黄

解説 (よく見て習いましょう)

鳥	て	父
飼	黄	に
い	色	相
ま	い	談
す	小	し

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小六年

る	窓	新
田	か	幹
園	ら	線
風	見	の
景	え	車

(全員)

解説 (よく見て習いましょう)

窓	新
見	幹
線	線
園	車

〈用具〉自由 (黒色に限る)

中一年

作	キ	誕
つ	を	生
て	事	日
準	前	ヶ
備	に	一

(行書)

中二・三年

(行書)

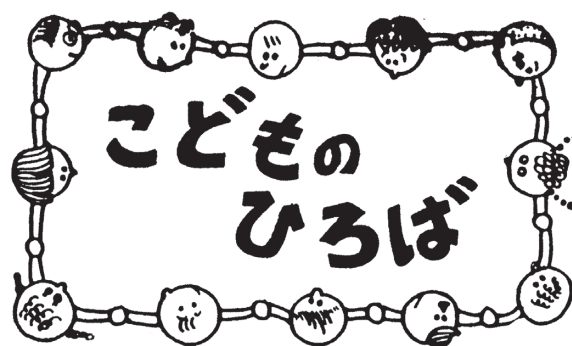
立	公	粉
候	約	骨
補	を	碎
し	掲	身
た	げ	の

▼小三年以下の課題 田 中 愛 紅 書

豆	年	し	豆	せ
を	の	て	ま	つ
食	数	か	き	分
べ	だ	ら	を	の
る	け			日
よ				



◎お手本はえんぴつ使用

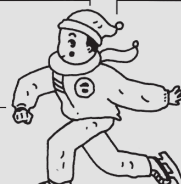


しめきり 2月21日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 高 原 飛 水 書

特	ス	選	県	中
訓	ケ	出	の	学
中	ー	さ	代	生
で	ト	れ	表	の
す	リ		に	兄
	ン			は
	ク			
	で			

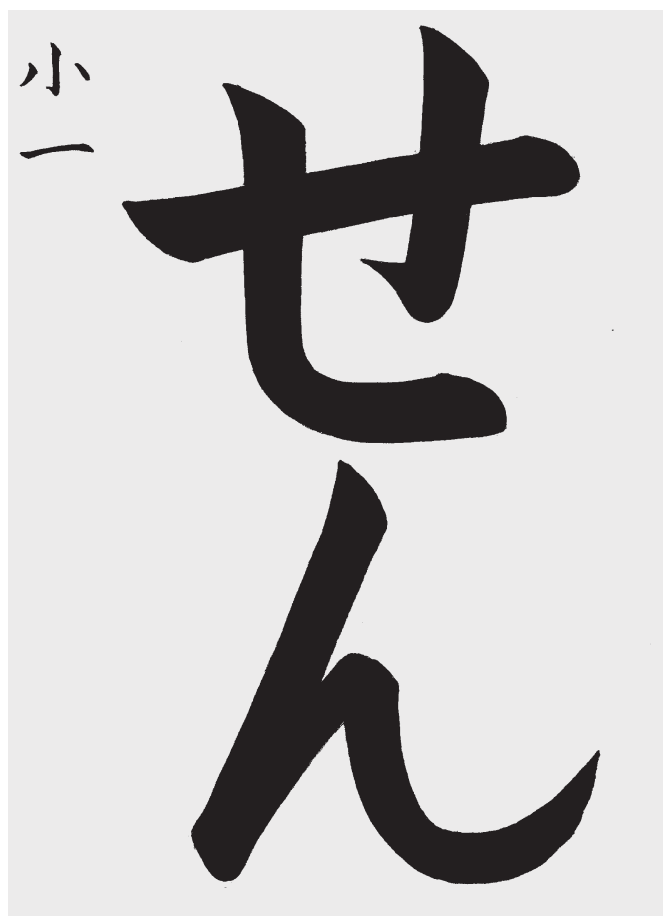
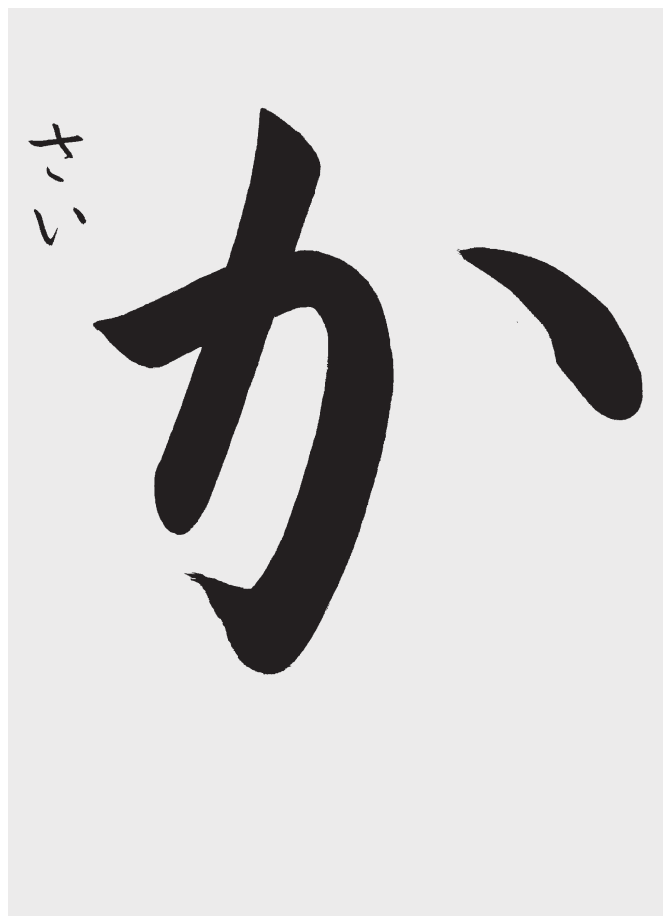


◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





小五
い黄色
鳥色

ば花
小三
た

黄色
花
福
色
鳥
引

き福
小四
引

小三・小五年
水野碧友書

中
二
三

粉 身
碎 骨

小
六

田 園
風 景

小六〜中二・三年
玉樹小華書

※行書は線の連なりや気脈を注意して書こう。

風 景
骨 前
備 碎

中
一

事 前
准 備